

いもち病、紋枯病、稻こうじ病も、 イネドロオイムシ、イネミズゾウムシ、 ニカメイチュウ、イネヒメハモグリバエ、 イナゴ類も、スッキリ解消!

新たな効き目で、いもち病をしっかりと防ぐ!
優れた浸透移行性がもたらす長期予防で、
高品質な米づくりをサポートします。



側条施用
OK!

高密度
播種苗OK!

トリプルキック® 箱粒剤

水稻用 殺虫殺菌剤

トリプルキックは登録商標です
CYAZYPYR®は、FMC Corporationまたはその米国およびその他の国の子会社・関連会社の登録商標です

powered by
CYAZYPYR®
ACTIVE INGREDIENT

三井化学クロップ&ライフ
ソリューション株式会社



さらば、いもち病!



[トリプロカルブ配合]

トリプルキック[®]

水稻用 殺虫殺菌剤

箱粒剤

■農林水産省登録: 第23886号

■有効成分:

シアントラニリプロール…0.75%

シメカゾール…4.5%

トルプロカルブ…9.0%

■性状: 類白色細粒

■人畜毒性(製剤): 普通物*

*「毒物及び劇物取締法」(厚生労働省)に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受ける物質を示す。

殺虫剤分類

28

殺菌剤分類

3, 16.3

トリプルキック箱粒剤の特長

いもち病に2つの作用性

『メラニン生成阻害 MBI-P』+『病害抵抗性誘導』
1成分で2つの作用機構を有する「トルプロカルブ」を配合!
新系統の効き目で、いもち病菌を強力にブロックします。

葉いもちから穂いもち、

紋枯病や稻こうじ病
まで、箱処理でカバー!

水稻初期害虫やニカメイチュウ、

イネヒメハモグリバエや
イナゴ類も、長期間抑える!

いもち病に対する効果



2014年 三井化学クロップ&ライフソリューション(株)農業化学研究所

試験地:滋賀県野洲市

イネ品種:幸風

試験設計:1区28.8m²(3.6m×8m)、3連制
薬剤処理:7/16(移植当日)に50g/箱を処理

調査方法 葉いもちは、9/3(移植40日後)に各区100株の全葉の病斑数を調査

穂いもちは、10/16に各区40株の全穗について発病程度別に調査し、被害度を算出

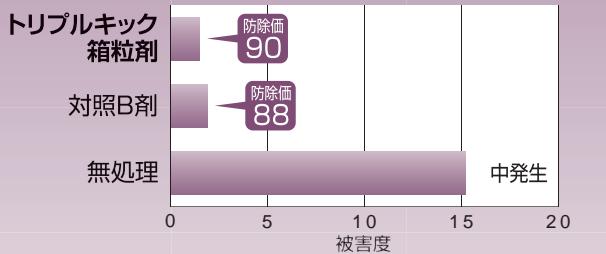
被害度 = a + b × 0.66 + c × 0.26

発病程度 a:穂いもち発病率

b:枝梗1/3以上発病率

c:枝梗1/3未満発病率

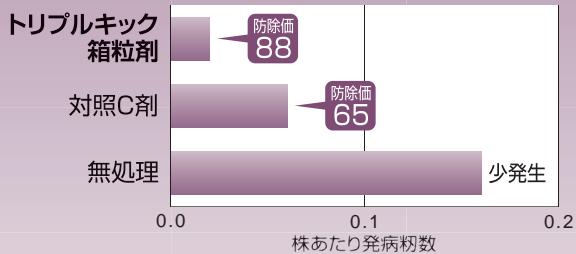
紋枯病に対する効果 2014年 三井化学クロップ&ライフソリューション(株)農業化学研究所



試験地:滋賀県野洲市 イネ品種:日本晴 試験設計:1区19.2m²(2.4m×8m)、3反復 薬剤処理:5/15(移植当日)に50g/箱処理 調査方法:9/3に井上式調査法により調査した。1区100株の上位3葉以上に病斑がある株を発病株として発病率を算出した。発病株の中から20株について、井上式全体の被害度調査法により、全体の被害度を算出した。全体の被害度=(発病株の被害度×発病率)/100

稻こうじ病に対する効果

2014年 秋田県農業試験場



試験地:秋田県秋田市 イネ品種:あきたこまち 試験設計:1区75.6m²(21×3.6m)、3連制
薬剤処理トリプルキック箱粒剤は5/12(移植当日)に50g/箱処理、C剤は7/18(出穗13日前)
に3kg/10a相当量を湛水散布。 調査方法:9/2に各区100株について発病率を調査し、株あたり発病率を算出した。

試験成績は「新農業実用化試験成績」(日本植物防疫協会)より一部転記

2023年3月8日現在

適用病害虫と使用方法

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シアントラニリプロールを含む農薬の総使用回数	シメカゾールを含む農薬の総使用回数	トルプロカルブを含む農薬の総使用回数
稻(箱育苗)	イネドロオイムシ、イネミズゾウムシ 二カメイチュウ、フタオビコヤガ イネツトムシ、いもち病、紋枯病、稻こうじ病 墨黒穗病、穂枯れ(ごま葉枯病菌) もみ枯細菌病、内穎褐変病、白葉枯病	育苗箱 (30×60×3cm、使用土壤約5l) 1箱当たり50g	移植3日前～移植当日	1回	育苗箱の上から均一に散布する	1回	2回以内 (移植時までの処理は1回以内)	2回以内 (移植時までの処理は1回以内、 本田での湛水散布、 無人航空機散布、 投げ入れは合計1回以内)
	イナゴ類、イネヒメハモグリバエ	高密度には種する場合は1kg/10a [育苗箱(30×60×3cm、 使用土壤約5l) 1箱当たり50～100g]	移植当日					
	イナゴ類、イネヒメハモグリバエ	育苗箱 (30×60×3cm、使用土壤約5l) 1箱当たり50g	移植時	側条施用				
稻	イネドロオイムシ、イネミズゾウムシ いもち病、紋枯病	1kg/10a						

使用上の注意事項

●本剤を育苗箱に処理する場合は、次の注意事項を守ってください。

①育苗箱(30×60×3cm、使用土壤約5l)1箱当たりに乾粉として200から300g程度を高密度には種する場合は、10a当たりの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が1kg/10aまでとなるよう、育苗箱1箱当たりの薬量を50から100gまでの範囲で調整してください。

②薬剤が育苗箱からこぼれ落ちないように処理を行ってください。

③本剤の所定量を育苗箱の上から均一に散布し、葉に付着した薬剤を払い落とし、軽く散水してから田植機にかけて移植してください。育苗箱に高密度には種した場合は、とくに注意して葉に付着した薬剤を払い落としてください。

④葉先枯れなどの薬害を生じることもあるので、散布ム

ラがないよう均一に散布してください。

●本剤を移植時に使用する場合は、専用の移植同時施薬機を使い、側条施用してください。

●容器:空袋はほ場などに放置せず、適切に処理してください。
●本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合には、病害防除所等関係機関の指導を受けることをおすすめします。

本製品は農業用殺虫殺菌剤であり、製品ラベルの記載内容以外には使用しないでください。本印刷物は2023年3月31日現在の資料、情報、データ等に基づいて作成していますが、記載データ及び評価はあくまでも測定値の代表例であり、全ての事例に当てはまるものではありません。

●使用前には、ラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●本剤は小児の手の届く所には置かないでください。
●空袋などはほ場などに放置せず、適切に処理してください。●防除日誌を記帳しましょう。



三井化学クロップ&ライフソリューション株式会社

東京都中央区日本橋1-19-1日本橋ダイヤビルディング
ホームページ https://www.mc-croplifesolutions.com

TPK1B01J